

特定非営利活動法人日本スポーツ栄養学会第9回大会報告

石原健吾（龍谷大学農学部）

2023年9月9～10日に龍谷大学瀬田キャンパスにて日本スポーツ栄養学会第9回大会が開催されました。新型コロナウイルス感染症が5類に移行したこともあり、現地参加される方が約700名の盛会となりました。10月2～11月13日までのオンデマンド配信のみの参加者が約400名、現地開催と合わせて参加登録者数は1,100名を超えました。また一般演題もこれまでで最も多く、109演題になりました。大会として大切に考えてきた、対面開催での人と人との交流、スポーツ栄養に関わる学術情報の発信・情報交換の両面において、充実した学会大会となりました。

2日間のプログラムは最大5会場を用いて、大会テーマ「ゆりかごから墓場までのスポーツ栄養学」にもとづく講演・シンポジウムと一般演題を並行して行ないました。1日目午前中には田畑泉先生（立命館大学特命教授）から、午後には伏木亨先生（京都大学名誉教授、甲子園大学学長）から、頂点を極めたスポーツ選手や一流料理人を対象とした取り組みを紹介いただき、生涯スポーツや美味しい食は、あらゆる世代の健康づくりとパフォーマンス向上に活用できることをお話し頂きました。

特別講演は、平安時代から続く荒行、比叡山千日回峰行満行の光永圓道大阿闍梨をお招きして、荒行による身体と感覚の変化と日々の食生活について紹介頂きました。引き続いての「競技を知る」では、比叡山国際トレイルラン優勝者・日本代表の西村広和選手から、平均的ランナーだった昔を振り返り、試行錯誤の重要性を語って頂きました。

シンポジウムや他の講演・企画でも、パラアスリート、疾病予防、多職種連携、地域スポーツ推進、地域づくり、たんぱく質、コメ、低温調理、消化管ホルモン、ミトコンドリアなどをテーマにした多様なセッションが行われました。



会場前看板と開場前の緊張



受付、案内用立看板

ポストコロナの大会として、オンラインを活用したセッションも実施しました。一つは現役の金メダリストの大会参加です。柔道 100kg 級ウルフ・アロン選手は、公認スポーツ栄養士、トレーナーとの取り組みについて語って下さいました。2つ目は、市民公開講座「スポーツ栄養士のキャリア探求」です。会場での対面開催と同時にライブ配信のハイブリッド形式としました。市民からの参加者はオンラインに限定して、高校生や大学生を対象に全国から参加を募りました。初めての試みであったにも関わらずオンラインで 85 名の参加があり、会場での参加者と合わせると 250 名を超えるセッションとなりました。3点目は、(想定外のことでしたが) 初日冒頭の教育講演(橋本健志先生、立命館大学)です。前日にフライトのトラブルで会場に到着できないことがわかった時点で、空港で収録したプレゼンテーションを会場で上映、質疑応答は空港からライブ接続にて行うというポストコロナにふさわしい臨機応変なご対応をいただきました。

一般演題は、これまでの学会大会に引き続き、疑問を発表してみることを答え(情報)の獲得につながるという方針で準備しました。学会発表の垣根を下げるために設けたショートプレゼンテーション&フロアディスカッション部門では、23 演題の発表があり、大会全体の発表演題数増加につながりました。発表を通じて学会参加の醍醐味を感じた方が増えたことを嬉しく感じています。参加者にとっても、一般演題の充実が学会大会参加をより魅力的なものにします。一般演題発表された方におかれましては、学会大会でのディスカッションをふまえて研究誌への論文、ショートルポートの執筆に一步踏み出して頂きたいと思っております。学会主催の執筆マッチング企画がその一助となれば大変嬉しいです。そして数年後には、一般演題発表された方が教育講演、シンポジストとして登壇されることが日本スポーツ栄養学会の一層の発展につながります。今後のご活躍を心より楽しみにしています。



会場遠景 (第2会場 共催教育講演)



優秀演題賞 表彰式

協賛企業の方にも、対面開催の学会で多くの参加者から生の声を聞いた、届けたという手応えを感じてほしいと考え、企業展示を回るスタンプラリーを企画しました。準備されたパンフレットや試供品を初日のうちに配り尽くしたという喜びの声を頂きました。今後とも日本スポーツ栄養学会にご支援を賜りますよう心よりお願い致します。

今大会では、4年ぶりに懇親会を開催することができました。滋賀らしいひとときを感じていただくために、ピワマスや鮎のお料理（ひさご寿し）、近江の酒蔵めぐり（滋賀県酒造組合）や、シンポジウムと連動した低温料理器 BONIQ 実演（葉山社中）を企画しました。

来年の第10回大会（女子栄養大学、大会長：香川雅春先生）では、さらにコロナの制限がなくなり、活気あふれる学術的交流の舞台となることを心よりお祈りしております。

最後になりましたが、今大会の企画・運営に際しまして多くのご支援、ご助力、親身なアドバイスをくださった全ての企業、団体様、先生方に心より御礼申し上げます。ともに準備くださった実行委員の先生方、スタッフの学生さん達に御礼申し上げます。



懇親会の鏡開き



閉会式後の実行委員会・スタッフ写真